



日本ボーイスカウト神奈川連盟 川崎スカウトクラブ

巻 頭 言

コロナ禍のオリンピック

会長 谷本 通安

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によりウィルスへの関心が高まり、東京五輪開催に約7割が否定意向に拘わらず、合理化・簡素化で感染防止の備えを前面に打出して開催に漕ぎ着けたい考えた。と言うのも中止すれば「負の遺産」の可能性があり、日本国・東京都の立場は“場所貸し”で、もし開催を返上した場合、決定権があるIOCから損害賠償請求、スポンサーからの収入減による違約金問題の発生も有り得るとの見方もあり中止回避に至った。IOCは「アスリートファースト」を掲げているが1業種1企業制の商業主義、特にテレビ放映権を持つNBCの意向が強く「テレビファースト」で開催時期やルール変更もなされた。クーベルタンによる理想化されたオリンピックの創設が混迷に向かい始めたと言っても過言ではない。聖火リレーが3月25日、福島県からスタートした。今では無くてはならないイベントで、初めて実施されたのは1936年ドイツ・ベルリン大会でカール・ディーム事務総長が発案、大会後第1次世界大戦で聖火リレールートを利用し各国に軍を進めリレーが戦争に利用された。それでも今日まで続いているのは五輪への関心・期待を高める目的が大きく、因みに前回の東京大会は無関心の人が多く4ヶ月前迄2.2%が聖火リレーにより大きく意識が変わった上、初めて国内外にテレビの衛星中継がなされた。また、膨張が止まらない莫大な経費が掛かるのも事実で、2024年大会に5ヶ国が立候補するも3ヶ国が棄権し最終的に2ヶ国になる。(2024年パリ、2028年ロサンゼルス開催が決定)。東京大会はコロナウィルスの影響で1年延期になり、2.4兆円の損失が出ても32.3兆円の景気浮揚効果が期待できると指摘されている。東京五輪の基本コンセプトは多様性と調和、未来への継承、そして最もイノベティブで世界にポジティブな改革をもたらす推進するコンパクト大会と掲げられている。東京大会はレガシー戦略(物理的・国際的・持続可能なスポーツ)を創造発展させる重要性が位置付けられている。今大会でもスポーツ施設の維持・管理の問題等、負の側面が指摘されており、これらの遺産をどのように評価し、どのように価値付けていくのが最大の焦点で課題となることは否めないだろう。感染力が強い変異株の猛威が顕在化し新たな直面を迎えた中、試金石の東京大会が目前に迫った。願わくは、安全・安心を祈るのみである。

令和3年度年次総会終了

会は成立しました。総会は、会則11 総会：議事は

今年度年次総会は2月11日を予定し会場も予約 出席者の過半数で議決される、に則り議案は成立していましたが、新型コロナウイルス感染予防で したため今年度の活動が開始されました。

「非常事態宣言」が出されたため、直前に当クラブ 皆様のご協力有難うございました。

で初めての書面評決で実施しました。会員21名中
(病欠2名)17名の方から賛成の回答を得たため総

(事務局)

平成 23 年(2011 年)3 月 11 日、東日本大震災が発生してから 10 年が経過した。先日、マスメディアにより復興の状況など報道されたが、発生直後の様子を振り返って教訓にしてもらいたい。

[東日本大震災 2011 年 3 月 11 日発生直後の ・救助・支援等の状況]

小川 芳郎

震災発生直後報道された被災者総数 100 万人、避難所収容者数 23 万人の災害をどのような体制で支援していくのか、その刻々を知るために発生から約 15 日間毎日報道された事象を書き留めていた。従って、被災者総数、死者、不明者などの数字はあくまで震災直後に報道されたものである。

震災内容

地震 (M9)・津波 (海拔 23m到達)・火災・原発破損・余震・被災者総数 100 万人。

2011 年 3 月 26 日現在、死者 14,418 人、行方不明者 10,772 人、公共施設避難所収容者 198,000 人避難所 3,000 箇所、公民館、学校など公共施設使用。死者のうち身元不明者多い、DNA 鑑定、安置所不足 火葬場所不足 (一時土葬)。原発放射能漏れ 1cc 当たり 230 万ベクレルの水漏れ (高濃度放射性物質) 子供の甲状腺への影響不安、東電は 20 km、30 km避難勧告。野菜汚染 200 km先の東京の水道水汚染、風評被害 東京都でも買いだめ発生で物不足。参考 (2021 年 3 月 10 日現在、死者 15,900 人、震災関連死者 3,700 人、不明者 2,525 人) (家屋全壊・家屋流失 121,992 戸、半壊 282,920 戸、全半焼 297 戸、床上浸水 1,628 戸、床下浸水 10,076 戸の合計 416,913 戸。岩手、宮城、福島 3 県の 1 世帯当たり平均人数 2.6 人、416,913 戸×2.6=1,083,973 人)

ライフラインの状況

道路：道路の寸断、タンクローリー車両が通行できない。

水道：放射能汚染、水道管破裂のため断水 10 万世帯、給水車で対応。

電気：原子力発電所破損、計画停電実施。

ガス：都市ガスは地震発生から 40 分後に 7 万戸で

緊急停止。LP ガス基地の被災、LP ガス容器の流失
暖房：雨、雪が降る、石油ストーブ要。

燃料：給油所 (ガソリンスタンド) 被災、製油所火災により、灯油、ガソリン不足でマイカー、ショベルカー、救急車両が動けない、暖房器具が使えない。

移動手段：マイカー、ノーパンク自転車、貨車は 3 月 26 日に郡山まで開通。

通信手段：携帯電話繋がらず衛星通信電話のみ。

携帯電話の紛失と新規取得

保険：地震保険

住：全国の公共施設住宅の空き部屋、仮設住宅 (半年かかる) 岩手県 8,800 戸集団避難希望調査、自治体毎に集団避難、残るか移るかの決断。宮城県南三陸町 3,400 人は仮設住宅出来る半年後までの避難、子供の教育・学校やいくつかの避難先の住宅の選択迫られる。

金：一定金額につき通帳紛失でも本人確認できれば払い出し OK、厚労省生活支援金の貸付、義援金の分配。

食：ペットボトル水、おにぎり、パン、赤子のミルク・離乳食、生活が落ち着くと温かいカップ麺などの要望が出る。

衣：毛布、下着、生理用品、赤子のおむつ。

医療：医師、看護師、日本赤十字社、保健師、薬品、事務職員が必要。ごみの山に石灰散布、メンタルケア、病院の停電は人工呼吸者に命取り、予備電源は 1 日 4 時間しか稼働できない、3 月 26 日現在でも発電機の灯油をガソリンスタンドへ職員が買いに走り回っている。イスラエルの医療チーム 3 月 27 日来日

救助機関

自衛隊：10 万人派遣、物資輸送、給水・風呂、消防車、防放射線戦車、ホーバークラフト、ヘリコプター等。

その他：福島原発から東京までの放射線を計測するとアメリカ大使発表、アメリカ軍は空母ドナルドレーガン派遣、仙台空港を開通させた。ヘリでの救助活動。4月1日アメリカの核部隊を受け入れ、ドイツ・アメリカでは原発事故用ロボットを開発していたが日本は怠っていた。

警察：各県から応援派遣、生存者捜索、3日間は生存者優先、その後死者収容。

消防：各都市のハイパー消防隊が福島原発放水。

省庁：防災大臣、大学教授（原子力工学）原子力保安院等の会見。

地方自治体（県、市、町）：仮設住宅建設及び入居者選考、戸籍の紛失（データ流失）データ再製担当者設置。

ボランティア；ボランティアの窓口、むやみに行くと混乱する、自動車修理、美容師などの専門性ある人による人的支援優先。

国（政府）：阪神淡路大震災の時の指揮者、各国支援の窓口、官房長官の毎日の会見、野党が復興・救国で協力しない事態。国は正確な情報発表をすることが大切。住民は所属する自治体の情報を一番信用するため、自治体は正確な情報を発表することで住民の不安を取り除くことに努めるべき。



自衛隊員により懸命に続けられた捜索活動

宮城県名取市

（東日本大震災レポート写真集より）

【東日本大震災義援金募金】活動

川崎第 39 団では震災のあった直後から溝の口駅周辺で BVS～RS 隊の全スカウトが参加して募金活動を毎年行っています。

第 1 回は震災直後の 2011 年 3 月 27 日に募金活動を行いました、通りがかった皆さんが協力してくださり多額な義援金になり感激しました。

「東日本大震災義援金募金」にご協力いただき誠にありがとうございます。

ご報告

ボーイスカウト川崎第 39 団では、東日本大震災直後の 2011 年 3 月 27 日（日）からこれまでに 12 回の「東日本大震災義援金募金」の活動を溝の口駅周辺で実施してまいりました。

●募金実施実績

第 1 回	2011 年 3 月 27 日（日）	738,995 円	第 7 回	2013 年 12 月 8 日（日）	54,382 円
第 2 回	2011 年 5 月 29 日（日）	221,724 円	第 8 回	2014 年 3 月 9 日（日）	209,548 円
第 3 回	2011 年 12 月 4 日（日）	212,877 円	第 9 回	2015 年 3 月 8 日（日）	174,846 円
第 4 回	2012 年 3 月 11 日（日）	470,980 円	第 10 回	2016 年 3 月 13 日（日）	301,417 円
第 5 回	2012 年 12 月 2 日（日）	198,233 円	第 11 回	2017 年 3 月 12 日（日）	246,686 円
第 6 回	2013 年 3 月 10 日（日）	232,955 円	第 12 回	2018 年 3 月 11 日（日）	352,365 円

前回までの募金総額 3,413,008 円

皆さまから預かりした義援金は日本赤十字社の東日本大震災義援金口座に振り込ませていただきました。
ご協力いただきありがとうございます。

募金は毎回、[日本赤十字社東日本大震災義援金募金] 口座に振り込んで被災地への支援に充ててもらっています。2019 年 3 月に 13 回目の募金活動を行い 291,095 円加えて、累計 3,704,103 円 になりました。上記の報告書を掲げながら募金を呼びかけました。2020 年、2021 年は新型コロナウイルス感染予防のため行えませんでした。



また、2012 年 2 月 11 日 VS, RS, 指導者 12 名で宮城県を訪問して、石巻第 6 団にドームテント 2 張り、塩竈第 1 団にタープ 2 張りを寄贈しました。

石巻第 6 団では、チーフリング作成、ゲーム大会で交流をしました。塩竈第 1 団では BVS から RS まで団を挙げて歓迎してくださいました。

団委員の皆さん手作りの“海鮮ちらし寿司”をご馳走になり帰途につきました。

（資料提供：北條賢一・井上麻里氏）

《ジャンボリー物語》

今回は第7回日本ジャンボリーになります。川崎地区派遣隊で参加した長谷川さん、大会のカラーチームで参加した稲葉さん、それぞれ違う立場からお二人に寄稿していただきました。

【苦しくも楽しかった第7回日本ジャンボリー】

寄稿 川崎地区国際委員会 長谷川 博之

暴風雨の中で屋根だけのマーキーテントが見えた。先発隊が持参してきた荷物も散乱している。



1978年に御殿場で開催された第7回日本ジャンボリーの第一印象だ。

8月3日、暴風雨のこの地で、これから5泊6日のキャンプが始まろうとしていた。周囲でテントが立

っているところはほとんどなかった。この状況ではフライテントの設営は困難と判断した隊長はテントの設営を優先したが、結果的に40人分のテントはことごとくポールが折れ、最後の一手だと隊長が我々に教えた吹き流し式の設営方法で何とか2張りのテントを立て、さらにフライテントを仮設して全員を収容した。この設営方法は今でも忘れていない。

このジャンボリーは8月4日～8月8日にかけて静岡県御殿場市・東富士演習場滝ヶ原駐屯地で開催されてもので、私は当時26歳で神奈川第1隊（BS隊）の副長だった。ちなみに川崎からはシニア隊も1個隊が派遣されていた。

我々の隊は隊長：大西（47団）、副長：長谷川（39団）、原田（21団）、副長補：五十嵐（39団）、高橋、以下総勢40名（スカウト4班）で構成され、通称武蔵隊と呼ばれていた。偶然かどうか7名の指導者は全員が野営行事委員会の強力スタッフで、大西隊長（当時30歳）は知識・実力豊富な日大ローバーOBとしても全国的に有名な方で、私の師匠の一人でもある。このキャンプで特筆すべき点を挙げると、こんなことが思い出される。

1) 4日のカレーの配給が間違っていて、カレーがなくて全部福神漬けだった。（＾＾；）

2) リヤカーを引いていた坂本隊付がジャンボリーを訪問されていた福田首相（当時）に声をかけられたこと、リヤカー対談！！

3) 派遣訓練からジャンボリー終了まで、現地でガリ版刷りの隊新聞「武蔵」を毎日発行して配っていた。これは今見ても当時の雰囲気が伝わってくる。（長谷川所蔵）

4) 毎晩恐怖？の赤丸反省会を全員で実施、恐怖というものの毎晩大爆笑の反省会だった。

5) 近隣のフィリピンやインドネシアの隊と交流していた。

6) トイレの目隠しベニヤ版は自由落書きコーナーで訪問者喜ぶ！

隊長も副長も、副長補も隊付も、そしてスカウトも笑顔が絶えない隊でした。

48年も前のことですから、当時のスカウトは55歳前後でしょう。この原稿を書いていて、同窓会でもできればどんなに楽しいことかな、などと思いながらペンを置きます。



神奈川 第1隊 リヤカー部隊



1978 7NJ 神奈川 第1隊
カレーという名の福神漬けごはん

〔第7回日本ジャンボリー(7NJ) カラーチーム〕

稲葉 正明

7NJ カラーチームは 1978 年 3 月 27 日に神奈川県立中央青年の家で結隊式を行いました。

7NJ の開会式まで 130 日余りとなっていました。が、そのミッションを果たすために結隊式に続いて 7 日間の訓練を始めました。

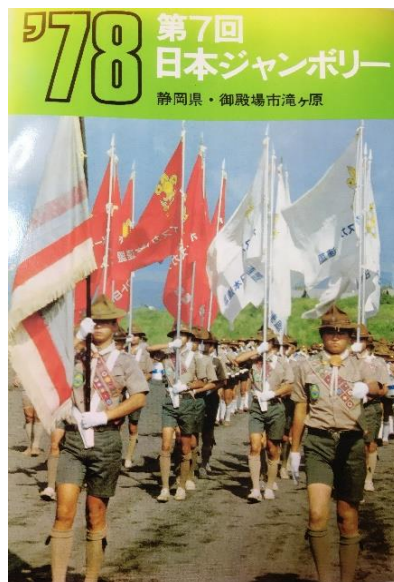
7NJ カラーチームは湘北地区(24 名)、川崎地区(12 名)のシニアスカウトから編成され、隊長には横須賀健治氏(当時横浜地区副コミッショナー)、副長には上之園洋一さん(湘北地区)と私が任命されました。カラーチームは神奈川連盟のシニアスカウト隊としての位置づけでしたが、日本連盟行事部に配属され、行事部のサイト内で設営をしました。神奈川連盟からは GHQ 特別奉仕シニア隊も行事部に配属されましたが、全員がゴールデンアックストレーニングチーム(G.A.T.C)に参加していたシニアスカウトでした。すでに、G.A.T.C の活動は広く知られており、行事部の関係者からも注目される存在でした。

7NJ カラーチームは 8 月 4 日の開会式に先立ち、8 月 1 日午前 10 時にサイト入りし、7NJ 会場での現地リハーサルを行っています。このリハーサルは、結隊式直後の訓練から数えて第 6 次(最終)となるものですが、その間、基本ドリルとパターンの組立てを繰り返し練習してきました。

相模原地区および川崎地区の訓練会場を歩き来しながら、練度を上げていきましたが、小学校の体育館や自衛隊分屯地での訓練を準備するにあたっては、両地区の指導者から多大なご支援をいただきました。川崎地区のスカウトはいずれも G.A.T.C に参加し、近江廣之隊長の薫陶を受けた精鋭ばかりでしたが、チーム編成のために選ばれた一員としての気概がその行動の端々に表われていました。稲葉睦美氏(当時神奈川連盟副コミッショナー)も訓練の場に足を運ばれ、カラーチームのスカウトを鼓舞していただきました。横須賀隊長とともに、素晴らしい指導者に恵まれた訓練プロ

グラムだったと実感しています。

ファンファーレがこだまする中で開会式が始まりました。7NJ カラーチームの先頭を進み、栄えある日本連盟旗の正・副旗手をつとめたのは中村敦君(写真左 川崎 42 団)と河合成治君(写真右 川崎 48 団)でした。



その瞬間、鍛錬の成果がアリーナ全体に展開され、その堂々としたその様子は“深い深い森に おたけび響きわたる 今ぞ躍動のキャンプ、、、”(7NJ の歌「明日に向かって」の冒頭)をそ

のまま体現するかのようでした。

7NJ の期間中、カラーチームは多くの参加者に感動を与え、その雄姿は記念アルバムの表紙を飾るほどのものになっていました。

本記事をまとめるにあたって 43 年ぶりに横須賀隊長にも連絡を取らせていただき、貴重な資料やエピソードを教えていただきました。

激しい雨が国旗掲揚エリアに通じる道をふさいでしまったことを知ったカラーチームのメンバーが、朝食前の時間を使って道普請を行い、笑顔で戻ってきたことに感銘を受けたと話されていました。

アリーナから離れていても、奉仕という旗印を掲げ続けていた 7NJ カラーチームの一人一人を誇りに思います。



〔長谷川コレクション〕 第4回

寄稿 長谷川 博之

19. 1969 年：川崎地区創立 20 周年記念 沖縄親善キャンプ（伊武部ビーチ）

これは沖縄返還の 3 年前に川崎地区創立 20 周年を記念して当時米国領であった沖縄の米国・極東地区との親善キャンプを行った時の参加賞、立川基地での打ち合わせ、現地でのキャンプです。



現地では沖縄のアメリカ人スカウトが日章旗を掲げて行進をしてくれたことがとても印象に残っているとのことでした。



父は小清水協議会長と共に米軍基地の極東地区要人との打ち合わせをし、現地へパスポート携えて打ち合わせに行っていました。



浅黒い顔つきを見た機内の CA が外人と間違えて英語で話しかけてきたというのが父の自慢の種でした。

当時の私はオートバイを買うために夏休みすべてを父が所長をしていた青少年の家でコック（と言っても朝から晩までキャベツの千切り、玉ねぎの皮むき、食器洗いなどでした）のアルバイトをしていたので参加していません。

■1970 年代

20. 1970 年：第 5 回日本ジャンボリー（朝霧高原）

翌年の第 13 回世界ジャンボリーを控え、富士山のふもとの朝霧高原で開催されました。

このジャンボリーから混成隊での参加形態となった初回でした。私は高校 3 年生で、同じ隊には高校 1 年の濱田雅弘氏も一緒に、私は自分の予備制服を米国スカウトのグリーン制服と交換しました。この制服が 15 年後のサウジアラビアでの仕事に多大な貢献をすることになるとは思いもしなかったのです。



さらに特筆すべきは、父がこの年の 12 月 25 日に 48 歳で急逝し、これが生涯で最後のキャンプになったということです。翌年の第 13 回世界ジャンボリーの神奈川派遣団の団長に内定していたこともあり無念であったと思います。



一番左の白シャツ姿が父です。当時私は高専の 3 年だったので、父親が急逝したことで 3 年生終了時に就職しようと考えその旨を話したところ、多くの BS 関係者の方や父の上司・職場の皆さんから猛反対されました。そのおかげで無事 1973 年に卒業ができ、エンジニアとして 45 年の会社生

活を送ることが出来ました。そういう意味で我が家はボーイスカウトの精神「いつも他の人々をたすけます」ということに助けられました。

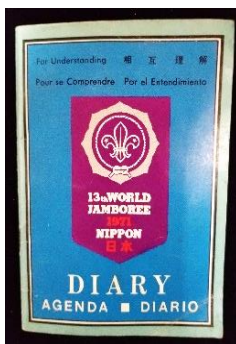
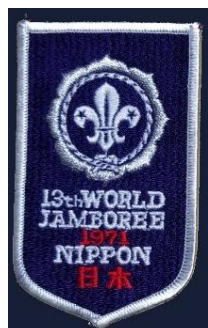
21. 1970 年 10 月：川崎地区創立 20 周年



この 20 周年記念は 10 月に川崎さいか屋でスカウト展を開催し、記念式典とアトラクションを東芝体育館で開催したと記録にあります。

22. 1971 年: 第 13 回世界ジャンボリー (朝霧高原)

日本で初めての世界ジャンボリーで約 25,000 人が集まったとされる思い出深いジャンボリーでした。前述の第 5 回日本ジャンボリー以降の全国大会は、私たちの年代では経験者が多くなっており、ちょうど



世代交代の時期だったかもしれません。社会人になった後から現在に至るまでに

知り合った友人、同僚、取り引き先などでボーイスカウトの話題にな

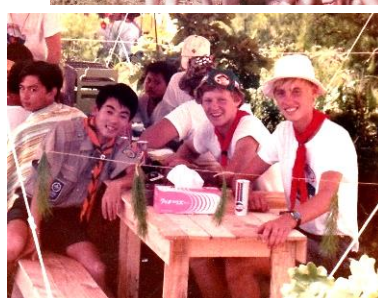
った時に「私もそこにいましたよ!!」などと言う話で盛り上がることが多いですね。

私はサブキャンプのスタッフとして父の遺影を持参して参加しました。早朝に見えたとてもきれいな富士山が猛烈な台風の予兆になるとは誰もが予想していなかったと思います。

多くの外国隊が避難しましたが、我々はテントの立地条件が良かったせいか、浸水するも避難することなくキャンプを続行できました。

しかし、米飯炊事には限度があり、パンやコー

ンフレークの食事が多く、私達の班長は無類の米好きだったので厚木の自宅にまでおにぎりを調達しに行くという快挙をやったのけたのも今となっては良い思い出です。



最後に、私個人の歴史にもなったこの原稿を総括し最近までを再現するとこんなものになります。



以上

《トピックス》

渡部記

〔神奈川連盟機関紙“やまゆり”復刊〕

かつて日本連盟主催〔機関紙コンテスト〕で優秀賞に選ばれた神奈川連盟機関誌“やまゆり”はインターネットの出現により「ネットで見られるので印刷物は不要」とのことで休刊に入り、20年以上前から発行されなくなりました（記憶



が曖昧だが)

それが2021年2月4日、組織戦略委員会委員長境紳隆さん等の努力により復刊されました。昨年2月から流行している「新型コロナウイルス」感染拡大防止の影響からBS活動は大打撃

を受けて、隊集会をはじめキャンプ・野外活動すらできなくなっていますが、その中で如何に工夫をして活動が続けているか。県内6地区の団・隊の活動を紹介しています。タイムリーな企画であり、内容も充実していて次号が楽しみです。思っていたら、3月30日発行、復刊第3号が出されました。発行部数が少なく皆さんに配布する部数は入手できませんので、パソコンをお持ちの方は県連ホームページに掲載されていますのでご覧ください。

〔川崎地区創立70周年事業〕

令和2年(2020)度が地区創立70周年で記念事業を計画していましたが“新形コロナウィルス拡大”の影響により、全て今年度に延期されました。

このため、令和3年度に各種記念事業が展開されることになりました。ただし、スカウト等から募集したシンボルマークは既に決定して、記念のワッペンが製作されて制服に着用するように決まっています。

〔川崎地区賛助会・会員募集〕

賛助会は昭和59年(1984)設立以来、地区スカウト活動を財政面から援助してきました。多くの方が会員として協力されていますが、会員が減少しているため新会員募集を行っています。

事務局長は鈴木秀明さん(KSC 会員)です。未加入の方は是非入会をご検討ください。

会 員 募 集

当クラブは一昨年発会11周年を迎えました。活動目的として「より幸福な生涯を究めて会員同士の体験学習から楽しさを味わい、成果を生かすため、地域社会・スカウト運動に参画する」ことを目指しています。

ハイキング、ディキャンプ、親睦旅行などを通して、楽しみながら活動しています。

どなたでも活動にご参加いただけます。

お問い合わせは下記へご連絡ください。

連 絡 先

わたなべ いさお
事務局 渡部 公

電話 045-973-8580

E-mail: ciao.14125@kce.biglobe.ne.jp

編集後記

・毎号、活動報告を掲載してきましたが「新型コロナウイルス感染予防」のため、活動を中止していますのでありません。コロナワクチン接種が進み、一日も早く安心して活動を再開出来ることを期待したいものです。

・4回にわたり掲載した「長谷川コレクション」も最終回となり、地区創立70周年記念年にふさわしい内容だったと思います。寄稿いただいた長谷川博之さんに感謝申し上げます。

・次号は9月20日発行です。地域活動、趣味、など内容は問いません。寄稿をお願いします。

・タイトル写真は「ウワミズザクラ(上溝桜)」で、コップ洗いタワシに似ていますが“ソメイヨシノ”が散った4月下旬頃に咲く桜の仲間です。(渡部)